

事業活動実績報告書

施 設 名	幼保連携型認定こども園まどか幼稚園
教 育 理 念	子どもの主体的な遊び・活動を中心に環境を通して、心身とも健康で元気な子、自分の心と体を大切に し自分以外の人の心と体も同じように大切にできる子、身近なものに興味を持つ子、自ら進んで活動が できる子、最後までやりぬく子、以上の5つの姿を持つ子どもを育成する。
1 事業名	投運動能力向上のための運動機会増進事業(継続)
2 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

3	取組概要	(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和7年4月30日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		例)2歳児 遊戯室 手と足を連動させて運動するステップの動作を含む遊び の実践を行った。	
		(取組日) 令和7年5月1日 ～ 令和7年5月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		例)2歳児 遊戯室 綱を用いて手の使い方(握力)や後ろに重心をかける経 験を促した。	
		(取組日) 令和7年6月1日 ～ 令和7年6月30日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		例)3歳児 遊戯室 縄を避ける遊びの中で、かわす、しゃがむ、跳ぶといった 運動を引き出し、バランス感覚の向上を図った。	
		(取組日) 令和7年6月1日 ～ 令和7年6月30日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		例)3歳児 遊戯室 サーキット遊びができるように環境を整え、各コーナーで 異なる動きを経験できるように配慮した。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年7月1日 ～ 令和7年7月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 例)3歳児 遊戯室 ダンボールを積んでいき、ボールを投げて倒す遊びを行った。	
		(取組日) 令和7年7月1日 ～ 令和7年7月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 例)4歳児 園庭 縄跳びを用いて、跳び方を方法を伝えと共に、腕を振る動作を経験できる遊びを行った。	
		(取組日) 令和7年7月1日 ～ 令和7年7月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 例)4歳児 園庭 あえて少人数でドッジボールを行うことで、一人当たりの投げる回数を増やし、楽しみや達成感を感じられるように配慮した。	
		(取組日) 令和7年9月1日 ～ 令和7年9月30日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 例)5歳児 園庭 協力しなければ勝てないチーム戦の鬼ごっこを行い、仲間関係や知的な戦略の検討といった運動面以外の育ちが期待される運動遊びを行った。	
		(取組日) 令和7年11月1日 ～ 令和7年11月30日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 例)5歳児 遊戯室 投げる場所を制限した玉入れを行って、狙った場所に投げる経験を促した。	
		(取組日) 令和7年11月1日 ～ 令和7年11月30日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 例)5歳児 遊戯室 力を使う遊びを、チームで競って行うことで全力で力を入れることを促した。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年6月1日 ～ 令和7年6月30日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		例)5歳児 遊戯室 雑巾をバトン代わりに使ってリレーをすることで、手で体重を支える経験に繋がった。	
		(取組日) 令和7年6月1日 ～ 令和7年6月30日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		例)3歳児 遊戯室 ダンボールでトンネルを作って遊ぶことで、潜る動きが経験しやすくなった。また常に担任が使うことができるように配慮したので、複数の学年で繰り返し使用されていた。	
		(取組日) 令和8年2月1日 ～ 令和8年2月28日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		例)2歳児 遊戯室 タオルを使って引く、投げる、振るといった動きを引き出す遊びを行った。身近にあるものを利用して動きを引き出す方法について担任と確認をした。	
		(取組日) 令和7年9月1日 ～ 令和7年9月30日	
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
例)0歳児 保育室 低年齢の子どもたち(特に0歳児クラス)は安心して運動遊びに取り組めるように保育室で活動を実施し、それでも活動に参加することが難しい場合は担任に遊び方を伝えて落ち着いたら別の機会に実施するように依頼した。			
(取組日) 令和7年10月1日 ～ 令和7年10月31日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
例)1歳児 保育室 カラーのビニール袋を繋ぎ合わせて、パラバルーンのような遊具を作り、振る動きを促した。			
(取組日) 令和7年6月1日 ～ 令和7年6月30日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
例)1歳児 保育室 紙コップ、紙皿、カラーボールなどの素材を組み合わせ、投げる、捕るといった動きを促した。			

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名	幼保連携型認定こども園まどか幼稚園
教 育 理 念	子どもの主体的な遊び・活動を中心に環境を通して、心身とも健康で元気な子、自分の心と体を大切にし自分以外の人の心と体も同じように大切にできる子、身近なものに興味を持つ子、自ら進んで活動ができる子、最後までやりぬく子、以上の5つの姿を持つ子どもを育成する。

計 画 時	事業の区分（5領域）	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの（複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください）
		健康 ◎ 人間関係 ○ 環境 言葉 表現
	1 事業名	投運動能力向上のための運動機会増進事業（継続）
	2 事業概要	低下傾向にある幼児の運動能力の中で特に投運動能力の向上を目指し、専任の運動指導者が常勤職として環境設定と指導を直接行う。
計 画 時	3 対象学級（クラス名） 対象人数	0～5歳児（クラス名： ） 210 名
	4 実施体制	取組に必要な環境（人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等）の保有状況 幼児体操教室に勤務経験のある運動指導者1名を専任常勤職として雇用している。 幼児の運動発達が専門で博士の学位を有する園長が管理をする。 園庭等の物的環境は特別区内では広い部類に入る。 指導に必要な教材を更新している。 昨年度は0～5歳の全ての担任も運動指導者と共に運動指導場面に関わるようにした。今年度は運動指導場面と設定した時間以外も担任が継続して活動を実施するようにする。
	事業後 4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 昨年度と同様に0歳児クラスから全ての学年で月に最低1回以上は計画的な運動遊びを設けることができた。年齢に合わせて園庭、遊戯室、保育室など使い分け、様々な場所で実施した。運動指導者と園長が相談し、手作り遊具なども制作する時間を設けることもできた。 特に今年度は担任と遊びのねらいと指導方法を共有すること、手作り遊具を担任が継続して使用できるように配慮したことで、提案した活動が継続して実施されていた。
	5 事業のねらい	課外活動などの運動指導とは異なり、子どもが主体的に運動したくなる環境を整備し、そこに運動指導者が常にいることでより豊かな運動経験を積むことができるようにする。その結果、在園児の特に投運動の運動能力の向上を図る。 昨年度、3歳児以上は遊びの中での投運動の様子を様々な方法で記録し、よりよい投運動を含む遊びを開発すると共にその指導法も検討し改善していくことで一人ひとりの発達を促すことを試みたが、記録方法に課題が残った。客観的かつ簡便な方法で記録し、継続して個々の記録を取ることができるようし、年間を通じて運動指導に活かすようにする。
計 画 時	事業後 5についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 投運動に限らず幅広く運動に取り組めるように物的・人的環境を整備した。 遊びの中に含まれる動作を確認するためのチェックシートを準備し、動作を客観的に記録できるようにした。 特に今年度は事前に遊びの中で経験すると予想される動作をピックアップし、その動作が経験されたかどうかをチェックする形にすることで記録が容易になった。
	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 自由遊び場面と一斉活動場面の両方で実施する。自由遊び場面では、運動指導者が物的環境を整備し、子ども達に運動あそびの提案を行う。主体的に遊びに参加する中で必要な場面で指導を受ける。一斉活動場面では、指導者が設定した学年に適した遊びを知るきっかけとなることを意識する。 自由遊びと一斉活動に連続性を持たせることが重要であり、専任指導者の存在の有無が取り組みに大きく影響する。
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 これまで取り組んだ中でもより効果的と考えられる運動遊びを厳選し、月齢等を考慮しながら月ごとに内容を変化させて、子どもが飽きないように留意しながら繰り返し提案するようにしてきた。これらを通じて、「いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。」ようにした。
		（継続事業のみ記入）前年度の取組から発展させた点 投運動を含む指導案、遊びの種類、指導者自身の評価といった記録を昨年以上に工夫することで、個々の現状と課題を把握する。具体的には、指導前に作成する指導案に加え、実際に行った遊びの種類とそこで経験される動きの種類を記録する。例えば、「遊びの種類：ドッジボール（経験する主な基本的動作：投げる、避ける）」といったものである。これらを記録し集計することで、遊びや経験する動作の偏りを明らかにし、その偏りを解消するために意図的に促す遊びや動作を精査する。また運動指導者による声かけや環境設定の反省点なども指導者自身の評価として記録する。そして、どの子ども「進んで戸外で遊ぶ。」ようになるように、日々の遊びの内容や声かけに配慮する。

	事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 一斉活動では、新規の遊びに加えて、子ども達が既に親しんでいる遊びも取り入れることで、多くの子が積極的に参加できている様子が見られた。ただし、昨年度の同学年の子ども達が好んだ活動であっても、今年度の子ども達には盛り上がりにくい遊びもあった。年齢だけではなく、個々および学級の特徴を踏まえて遊びの内容を流動的に計画する必要がある。 複数学年に同じ遊びを提案することで、自由遊びの際に自然と異年齢で関わる姿が見られていた。同じ投げる動きでも投げ方の動作パターンにはかなり差があり、ただ投げる動きを経験させるのではなく、上手に投げられるようになる環境作りが必要である。
	計画時	7 環境構成例	例) 遊戯室での低年齢児への投運動指導 2歳児 一斉活動場面 傘袋を用いた遊び 
計画時	事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 投運動に関しては、何かしらの遊具を投げることによって動きが引き出されるため、環境構成の中に遊具の準備が必要になる。特定の遊具を用いて(例としては傘袋)、一つの遊びを提案することはねらった動きを引き出すということに関しては有効であるが、多様な投げ方を経験すること、日常的に関わるということという視点からは課題が残る。
		8 期待される効果児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 投運動能力の向上に加え、全身の運動能力の向上が期待される。 さらにそれによって、遊びの質の向上と怪我の減少も期待される。 また運動を通して達成感を味わうことによる運動有能感の向上による肯定的な自己概念の形成の芽生えが期待される。 投運動を含む遊びをより好むようになり、より主体的・積極的に投運動を行うようになる。 一人ひとりが自分なりに達成感を感じ、運動に対してより自信を持つようになる。その結果、戸外遊びを好む子が増え、戸外遊びで運動遊びがより活発に行われる。
	事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 概ね期待した姿や効果は見られたが、心理面の経験と成長を把握することには困難さを感じた。数値目標を設定せず、個々に寄り添った提案を重ねることを意識し続けることが重要である。 年度当初よりも後半になる方が運動遊びをより楽しみにする姿が見られ、これには保育者との信頼関係や子ども同士の仲間関係の広がりも関係していると考えられ、運動面と人間関係面双方の関連性の高さが見受けられた。
		9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 特定の動作を引き出すこと、それを記録するという視点では十分な成果が得られた。その一方で、特定の動作に焦点化しすぎると、多様な動作(動作の種類および動作のバリエーション)の経験に繋がりにくくなることがジレンマである。 今後は運動遊びを好むか好まないかに関わらず、どの子どもも多様な動作を経験するためにはどのような教育方法が必要であるかを検討していく必要がある。 また運動指導をする際には、運動能力の向上だけを指すのではなく、好ましい心理的な発達や人間関係の広がりに繋がるように配慮して指導することが求められる。この点は客観的評価は難しいものの年度当初と年度末を比較すると、肯定的な経験を積み重ねてきたと判断することができる。このような評価ができることは単発の活動提案ではなく一年以上継続して行う事業ならではのあり、中長期の活動計画・実施の重要性は明らかである。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。